



東北防衛局広報紙
(東北6県の防衛に関する情報誌)

東北の **かなめ**

vol. 16
2011.9.16.

がんばろう!東北



(中尊寺金色堂)

平成23年6月、岩手県平泉町の中尊寺金色堂はユネスコの世界文化遺産に登録されました。
天治元年(1124)に初代藤原清衡により建立された奥州藤原文化の数少ない遺構の一つです。

特集：ガメラレーダーって、何？

- ・宮城県自衛隊撤収式
- ・対空射撃訓練を開始（青森県 六ヶ所対空射場）
- ・ミス・ビードル号太平洋横断 80 周年記念式典
- ・広報館ウォッチング
- ・幹部紹介（防衛補佐官）
- ・インフォメーション
- ・東北の自衛隊行事



ガメラレーダー



自衛隊撤収式



防衛省東北防衛局編集委員会編集発行
宮城県仙台市宮城野区五輪1丁目3-15
TEL 022-297-8208
ホームページ <http://www.mod.go.jp/rdb/tohoku/>

宮城県自衛隊撤収式

8月1日、宮城県庁において、3月11日の東日本大震災の発生以降、被災地で各種支援活動に従事していた自衛隊の撤収式が行われました。
撤収式では、支援活動に従事した自衛隊及びトモダチ作戦を実施した米軍関係者も招かれました。
村井宮城県知事は、「皆さんの温かい気持ちで、打ちひしがれた私たちに生き

自衛隊撤収式（宮城）

8月1日、宮城県庁で自衛隊の「撤収式」が行われ、支援活動に従事した陸海空各自衛隊員のほかに「トモダチ作戦」を実施した米軍関係者も招かれました。
村井宮城県知事は、「皆さんの温かい気持ちで、打ちひしがれた私たちに生き



△ 久納師団長へ感謝状贈呈



△ 村井県知事と久納師団長

る勇気を与え、復興に立ち上がる気力を沸き立たせてくれた。」と謝辞を述べました。これに対し、陸上自衛隊第6師団の久納師団長は「県民の『自衛隊さんありがとう』という声を聞くたびに、我々は一層元気になり、これまで活動することができた。」と述べました。
宮城県内での自衛隊の支援活動は、震災発生以降、144日間に及びました。



△ 宮城県庁職員に見送られる自衛隊員



宮城県知事から 東北防衛局に感謝状

東日本大震災において被災された方々及び被災地のために行われた多大な貢献に対して、村井県知事から出席した関係機関に感謝状の贈呈が行われ、東北防衛局が行った御遺体安置所の御遺族対応等に対しても感謝状が贈呈されました。



△ 村井県知事と感謝状を授与された関係者

対空射撃訓練を開始

青森県 六ヶ所対空射場



7月26日、六ヶ所対空射場において開所式が行われ、平成23年度の対空射撃訓練が開始されました。



- 1 携帯地对空誘導弾の射撃
- 2 標的機 RCAT
- 3 射撃に際しての安全確認
- 4 近距離地对空誘導弾の射撃
- 5 重機関銃の射撃

※ 写真は平成23年度以前の訓練時に撮影されたものです。



7月26日、陸上自衛隊八戸駐屯地六ヶ所対空射場において、平成23年度の射撃訓練が開始されました。

同射場は、本州で唯一の地对空射撃場（陸上から海上に向け射撃訓練を実施する施設）で、東北管内はもとより、全国の陸上自衛隊及び航空自衛隊等が、近距離地对空誘導弾、携帯地对空誘導弾及び対空機関砲等を使用した射撃訓練を毎年130日程度実施しています。

東北防衛局は、同射撃訓練の実施にあたり、自衛隊法第105条の規定に基づき、毎年7月1日から11月5日まで（毎日午前8時から午後7時まで）の間、訓練区域における漁船操業を制限又は禁止するとともに、当該制限等された区域において従来から適法に漁業を営んでいた者が経営上被った損失について補償を行っています。

なお、同射場は、昭和34年、青森県北東部の太平洋沿岸に所在する上北郡六ヶ所村尾鰯地区に設置されましたが、その後、同地区がむつ小川原開発地域に指定されたことから、昭和57年に約15km北方の同村泊地区に移転し、現在に至っています。

訓練使用装備品



△ 近距離地对空誘導弾



△ 携帯地对空誘導弾



△ 対空機関砲

出典：陸上自衛隊ホームページ (<http://www.mod.go.jp/gsd/index.html>)
航空自衛隊ホームページ (<http://www.mod.go.jp/asdf/index.html>)

広報館 ウォッチング

青森県青森市の陸上自衛隊青森駐屯地内にある「防衛館」は、明治11年に歩兵第5聯隊本部兵舎として建てられたもので、昭和43年に現在の場所に移築保存されました。

建物は当時としては珍しい西洋風建築で、玄関には円柱、外壁コーナーの隅石、1階には雪国のため雁木等が設置されています。

防衛館の展示室には、八甲田雪中行軍遭難資料をはじめ、県関連旧軍の貴重な資料が多数展示されています。

(平日は係員から展示資料の説明を受けることができます。要事前予約)

「青森駐屯地 防衛館」



開館時間：午前9時～午後4時
 休館日：年中無休（休館日についてはお問い合わせください。）
 入館料：無料
 問合せ先：〒038-0022
 青森県青森市大字浪館字近野45
 青森駐屯地広報
 TEL017(781)0161 内線372
 ※あらかじめご予約をお願いします。



ミス・ビードル号太平洋無着陸横断飛行80周年記念式典 ～ 復元機 memorial flight ～

ミス・ビードル号復元機諸元
 所有者 SPIRIT OF WENATCHEE
 機体長 27フット8インチ (約8.5m)
 機体高 アンテナ付 10フット6インチ (約3.2m)
 アンテナ無 8フット6インチ (約2.6m)
 プロペラ 9フット (約2.8m)
 翼長 23フット (約7.1m)
 翼幅 6フット9インチ (約2.1m)
 左右長 16フット8インチ (約5.1m)
 両翼 49フット9インチ (約15m)
 空重量 3,340ポンド (約1,515kg)



8月18日、ミス・ビードル号が80年振りに三沢市上空を飛行しました。今回のメモリアルフライトについて、三沢市との関わりや関係者の思いを、ミス・ビードルフライト実行委員会事務局にお話を伺いました。

「ミス・ビードル号と三沢市の関わりをお聞かせください」

昭和6年10月4日、二人のアメリカ人パイロット クライド・パンゲボーンとヒュー・ハーンドンが操縦するミス・ビードル号が青森県三沢村にある淋代海岸を飛び立ち、41時間10分後にアメリカワシントン州ウエナッチ地区へ胴体着陸し、世界初の太平洋無着陸横断飛行に成功しました。

パイロットたちの生活を世話し、海岸に仮設の滑走路をつくるなど横断飛行を成功させようと尽力した三沢村の人々の献身的な協力がウエナッチ地区の人々に伝わり、出発地である三沢市と到着地であるウエナッチ市・東ウエナッチ市は偉業達成50周年、70周年の年にそれぞれ姉妹都市関係を結び、以来毎年使節団を派遣し合うなど活発な交流が行われています。

「振り返ってみて、80周年記念のメモリアルフライトの意義は何だったのでしょうか」

ミス・ビードル号が縁で、三沢市とウエナッチ市・東ウエナッチ市は姉妹都市関係を結びました。私たちの関係は歴史に基づいてつながっています。

本年3月11日に発生した大震災により、東日本では色々な催し物が次々に中止せざるを得ない状況になりました。しかし、復興の願いが込められた義援金と励ましのメッセージが姉妹都市から当市へたくさん送られました。現地小学生からは、ミス・ビードル号の記念絵画が370点も届きました。復元機のパイロットたちは米軍三沢基地と絶えず連絡を取り合い、本年8月18



△ 離陸前のミス・ビードル号復元機

日の成功へ向けて綿密なフライト計画を立てました。そして、80年前にその目で本物のミス・ビードル号を見た人たちは、降りしきる雨の中、蘇ったミス・ビードル号の姿を目の当たりにし、当時を想い、涙しました。三沢市の協力で姉妹都市の架け橋となったミス・ビードル号は、今度はお返しとばかりに三沢市へ「夢」と「希望」を届けてくれました。小さな赤い飛行機によって結ばれた三つのまち、アメリカ、そして日本が大きく後押ししてくれたこと、そして歴史の確認がかなえられたことが、日米親善として教育的見地から今回のメモリアルフライトの最大の意義だったのでないかと考えます。



△ パイロットが搭乗し、メモリアルフライトへ

幹部紹介 (防衛補佐官)



防衛補佐官 1等陸佐 鈴木 力(すずき つとむ)

東日本大震災の発生から約二週間後に着任して以来、早半年が経とうとしています。大震災に見舞われたこの年に東北防衛局で勤務できることに對して何か運命的なものも感じているところです。

出身は紅花や冷たい肉そば等で有名な山形県河北町であり、田園地帯の広がる山形盆地のほぼ中央で、西に霊峰月山を仰ぎ見ながら自衛隊に入隊するまでの22年間を過ごしました。陸上自衛隊に入隊後、初級幹部時代は航空操縦士として操縦一筋に打ち込み、その後は陸上幕僚監部、東

部方面総監部等において幕僚として勤めてきました。また、平成17年から18年にかけては、地元山形に所在する第六飛行隊で飛行隊長として勤務した経験もあります。防衛補佐官の主要な任務は地方防衛局と部隊との架け橋となり、部隊運用の見地から各種助言を行い、局の業務遂行の円滑化を図ることです。これまでの陸上自衛隊での勤務経験を活かしつつ、新しいことも貪欲に吸収しながら職務に邁進したいと考えています。



△ 着任初日から震災対応に従事

- INFORMATION -



9月4日、航空自衛隊三沢基地において、「三沢基地航空祭2011」が開催され、自衛隊及び米軍による展示飛行や装備品の展示、アメリカ人による出店等、多くの人々にぎわいました。



東北の自衛隊広報行事

自衛隊（東北管内）が今後予定している広報行事等は次のとおりです。是非、見に来てください。

	開催日	イベント名	開催場所	問い合わせ先	
10月	空	10月 1日（土）	体験搭乗	三沢基地	第3航空団 司令部監理室広報班 0176-53-4121（3313）
	空	10月 2日（日）	秋田空港 空の日	秋田分屯基地	航空自衛隊秋田分屯基地 総括班広報係 018-886-3320（220）
	陸	10月16日（日）	大和駐屯地創立55周年記念行事	大和駐屯地	大和駐屯地広報班 022-345-2191（201）
	陸	10月16日（日）	福島駐屯地創立58周年記念行事	福島駐屯地	福島駐屯地広報室 024-593-1212（204）
	空	10月22日（土）	航空自衛隊加茂分屯基地部隊創設58周年記念行事	加茂分屯基地	航空自衛隊加茂分屯基地 総括班 0185-33-3030（202）
	陸	10月23日（日）	平成23年度自衛隊創立記念行事（市中パレード）	弘前市内	弘前駐屯地広報室 0172-87-2111（206）
11月	空	11月23日（水）	平川市民ふれあいコンサート	平川市民文化センター	北部航空方面隊 総務部広報班 0176-53-4121（2320）

※事前の申し込み、入場整理券等が必要なイベントもありますので、お出かけの前に問い合わせ先にご確認ください。

編集後記

防衛省は8月31日、福島第1原発事故の対応や入浴支援に当たる陸上自衛隊員約200人を除いて、東日本大震災での自衛隊の大規模災害派遣を終了しました。また、東北防衛局も8月31日をもって非常勤務体制を解除しました。

本年3月の東日本大震災から6ヶ月が過ぎ、各被災地においては、復旧から復興に向けた活動が着実に進んでおります。「がんばろう東北」そして「がんばろう日本」です。

東北防衛局では、これからもいろいろな角度から自衛隊の活動などを紹介していきたいと考えております。本紙「東北のかなめ」に対するご意見・ご感想などありましたら、お聞かせください。お待ちしております。



△ 「中尊寺ハス」

※ 表紙の写真は、本年6月に、ユネスコの世界文化遺産に登録された「平泉」（岩手県平泉町）の「中尊寺金色堂」です。